

このまちを楽しむ・みつめる・さんぽする

2017 初夏

tanappo 西東京

たなっぽ vol.4

特集

楽しい場所にはワケがある!

~そのひと(=ワケ)に会いに行こう月~

コト・ヒト西東京

やぎさわマーケットって、
なんだ!?

MaMa Pencil
Loco-works
team
since 2014

西東京の「いいじゃん!」を伝える・つなぐ・はぐくむ

TAKE FREE

ご自由にお持ちください



松本さんは、ある食品・化学品素材メーカー開発部署に31年間勤めた元サラリーマン。早期退職社後に「自分らしい方法で自宅の敷地を有効利用したい」との思いから、このような形を選んだそう。

たなっぽれしび

アボカド・ディップ

材料:ドライトマト、アボカド一個、玉ねぎ・セロリ(適量)、すりおろしニンニク、塩、タバスコ、レモン汁

※材料は細かくみじん切り、ドライトマトもハサミで細かく切り、浸るくらいの水でもどす(電子レンジ600w10秒加熱)。すべてを混ぜれば出来上がり♪ トマトの旨味が効いたディップと、クラッカーの塩気が相性抜群!



西東京市の農家さん

ファーム柳沢(松本 渉さん)

【主な生産物】トマトのみ(品種:フルティカ、シンディ)
西東京市柳沢6-5-11

「こちらの制御盤は、温度・湿度・照度・炭酸ガスの値をセンサー管理するもので」……いきなり工場見学のような説明がスタート?!

住宅街に突然現れる、トマト農家「ファーム柳沢」さんの「グリーンハウス」は、有機肥料を与えるタイミング、遮光カーテンの開閉に至るまですべて制御盤にて管理しているとのこと。害虫を遮断できる0.4mm穴のメッシュで覆われた内部は、「トマト・ラボ(研究所)」とお呼びしたほうがピッタリ。脚の付いた細長いボックス内に敷き詰められた土からは、スクッと立ち上がる苗が上へと伸び、それはまるで「トマトの森」! 真っ赤なミニトマトの房があちこちに実っています。

生産しているトマトは二種類。果皮が薄くて「食べやすく、親しまれる味」の「フルティカ(一袋300円)」は、子どもや年配の方に人気! 濃厚で甘い「シンディ(一袋200円)」は、カットした途端に香りが立ちのぼり「フルーツ?」と驚いてしまうほど。「一度味わったら止められない」存在感のある一粒です!

※どちらも、ドライトマトに加工したのもも販売しています。

たなっぽさんぽ、
ごいっしょに。

「西なの? 東なの? どんなまちなの?」改めて人に聞かれると、なんだかとらえどころのない西東京市。そんなこのまちの「魅力的なヒト、面白いコト、応援したいココロイキ」を、市民である私たち



「ままペンシル」がお伝えしたい。西東京市に住んでいる人も、そうでない人も、このまちにワクワクしてもらえたら嬉しいと、tanappo西東京が産声をあげて、ほぼ2年となりました。

今回の発行ですが、なんと! ご寄付くださった方々に支えられております!! 取材を通して出会ったあのひと、あのお店のみなさん、「作りたいのを作りなさいよ〜!」と嬉しい激励のお言葉付きです!

みなみなさま、ありがとうございました!

西東京市で「たなっぽ・さんぽ」。次のおさんぽ、いつだろな?

デザインでお手伝いいただいている、西武柳沢の駄菓子屋「ヤギサワベース」。一周年を迎え、人とまちをつなぐ企画も日々盛り上がっています。



今度は「ヤギサワベース」と一緒に、街の本棚「まちライブラリー」を開始すること。「まちライブラリー」とはまちのあちこちに小さな本棚(ライブラリー)をつくらう、という運動。ライブラリーの本は2店舗で自由に借りて返すことができます。いずれは商店街全体をライブラリーにしたいとのこと。こちらも目が離せません!

まちライブラリー
MACHI LIBRARY

tanappo西東京 第4号 2017年6月6日 発行

企画・制作:ままペンシル 徳丸由利子/廣田亜希子/三好希世乃

デザイン:中村晋也(ヤギサワベース)

印刷:株式会社グラフィック

※今後の「tanappo西東京」の情報につきましては、Facebookやホームページでお知らせしてまいります。よろしくお願ひいたします。

※「tanappo西東京」を置いてくださるお店さん、お知り合いの方に配布してくださる方を募集しております。右記メールアドレスまで御連絡ください。



ままペンシル
ホームページ
http://mamapencil.jimdo.com



ままペンシル
メールアドレス
mamapencil@gmail.com

「しがらみでも孤独でもない、そういうつながりのある暮らしがいいと思うんです。街に住む大人が、街にかかわることが普通になるといい」と話してくださいましたのは岩穴口康次さん。ふだんは23区内に通勤していますが、自宅近くの「ひばりテラス118」では、まちにわ師として活動しています。

「街に和」を描く水先案内人として、それぞれのできることを活かして活動しています。

20名ほどの「まちにわ師」の皆さんが、初めて一同に会し開催したのが、こちらの1周年記念イベント「NIIWA JAM (にわジャム) 2016」でした。敷地内では100人でいただきますをする「まちにわ食堂」、夜空の下での映画を見る「にわシネマ」が催されました。ほかにも書道家パフォーマンズや落語、

「アート表現がうまれるカフェにしたい」と話すのはカフェ「デコボコ」の主、浅野徳宏さん。店内奥の壁面にはさまざまなスタイルの絵が並びます。何人ものアーティストや仲間を描いてもらった、他では見られない融合アートです。

このお店を中心に浅野さんが開く「まるしえ@デコボコ」は、美味しいモノや音楽とがのびやかに呼応する、アートな場。地元の人だけでなく遠方からのお客さんまでが笑顔で過ごしているマルシェです。

浅野さんがマルシェを開いた理由はとてもシンプル☆「お店をやっていると他所に出かけられない。美味しい焼き鳥屋さんに来てもらったら、と思っ」て、浅野さん。同時に「保谷を楽しくしたい」という思いも。

保谷生まれ保谷育ちの浅野さん。子どもの頃は、もつと保谷に活気があったと語ります。店の前の道では、騎馬隊やバイクのハーレー部隊の音が、

子どもを含む100人が参加した「ハロウィンパレード」も実現!



街づくり想い人、
まちにわ師大集合!

ひばりテラス118

岩穴口康次さん
IWANAGUCHI KOJI

ひばりテラス 118

ひばりが丘 3-4-47 営業時間：9:00~21:00 定休日：火曜日 TEL：042-452-5758

運営：一般社団法人 まちにわひばりが丘

「ひばりテラス118」の運営とともに、2020年街の完成を目標に、住民に寄り添ったエリアマネジメントの展開及び、住民主体の運営を目指す土作りを行っている。



このまちに関わる人が、横につながり関係のまちにわ師。「楽しいことをやっていきたい、続けていきたい」と岩穴口さん。

圧巻!!100人で一緒に「いただきます」
~NIIWA JAM (にわジャム) 2016~

楽しい場所には ワケがある!

西東京市近辺に「人が集まる場」が作られていることを、tanappo西東京ではお伝えして来ました。今回は、その「場」がどんな思いで、なぜ作られたのか、お話を伺って来ましたよ!

「わくわく」を街に
呼び込みたい!

まるしえ@デコボコ

浅野徳宏さん
ASANO NORIHIRO

DECOBOCO Cafe&Bar(デコボコ カフェ&バー)

東町 3-11-22 レーヴ・ド・ラメール1F 定休日：日曜/第2・第4月曜
営業時間：カフェ 11:30~15:00/Bar 18:00~23:00 TEL：042-439-5374



ふとした「日常」にアート……異空間に身を置く心地よさを美味しい「カフェごはん」と一緒に♡



第10回目の開催も盛況だった「まるしえ@デコボコ」、今後の展開も楽しみ!



「まるしえ@デコボコ」は、美味しいモノや音楽とがのびやかに呼応する、アートな場。地元の人だけでなく遠方からのお客さんまでが笑顔で過ごしているマルシェです。

浅野さんがマルシェを開いた理由はとてもシンプル☆「お店をやっていると他所に出かけられない。美味しい焼き鳥屋さんに来てもらったら、と思っ」て、浅野さん。同時に「保谷を楽しくしたい」という思いも。

保谷生まれ保谷育ちの浅野さん。子どもの頃は、もつと保谷に活気があったと語ります。店の前の道では、騎馬隊やバイクのハーレー部隊の音が、

「そんなワクワクがいいですよね」。子どもの頃の思い出を今再び……。そんな気持ちをつなぐように、マルシェを盛り上げる友人がどんどんつなげていきます。「これがあるから来ました」と楽しみに訪れる市外のお客様も増えてきたとのこと。

皆さんもぜひ、保谷を楽しむ場へとお出かけください。

「そんなワクワクがいいですよね」。子どもの頃の思い出を今再び……。そんな気持ちをつなぐように、マルシェを盛り上げる友人がどんどんつなげていきます。「これがあるから来ました」と楽しみに訪れる市外のお客様も増えてきたとのこと。

皆さんもぜひ、保谷を楽しむ場へとお出かけください。



ここで友だちになった。
運営スタッフとその家族たち

おたがいさま食堂

【おたがいさま食堂@西東京市にわとくら】
新たな活動が決まり次第 Facebook 等でお知らせします。
※おたがいさま食堂の Facebook ページはどなたでも確認できます。

みんなで料理を作る、みんなで食べる。そして、笑顔になる。そんな活動をしているのが「おたがいさま食堂@西東京市にわとくら」。小さなお子さん連れの方も、大人のおひとりさまも大歓迎！ご近所さんも遠くから足を運ぶ人も、みんなで楽しむひとときです。

毎月1回「季節の汁物を作って食べる」をテーマに集まり、2017年3月までは古民家の蔵に作ったロケットストーブなどで料理していました。地元野



大きな鍋でつくる豚汁、おいしいね♪ みんなが主役、いっしょに食べよう！



菜を使って大きな鍋で汁物を作り、持ち寄った食材やおかずと一緒にいただきます。持ち寄りには自由で、お腹にたまるおにぎりなどは持参してもらいます。

各家庭の味付けやレシピ、食材の話など、いつの間にか会話が生まれ、初めましての人もいつの間にか友達になってしまっているから不思議です。

「もつと若い頃だったら、やっていなかったと思うんです。私はこの辺りで育ちましたが、ご近所さんにご

挨拶するのも、思春期には煩わしかったりして（笑）。でも子どもを育てるようになってから、家族や親戚ではない大人とのつながりが子どもにもあるといいなあと思うようになってきました。ここでなければありえなかつた出会いもありましたし、一緒に参加している子どもに対して、私たち親とはまた違った声かけをしてくれる方々にも巡り会えましたし。ボランティアなので金銭的な利益はありませんが、お金では数えられない、本当にプライスレスなものをいただきたい

たと思います」。そう話すのは、おたがいさま食堂を運営する中山奈々帆さん。——色々な人と、一緒に、楽しく。そんな思いが作ったおたがいさま食堂は、訪れる人だけでなく、運営するスタッフとその家族にも、かけがえない場となりました。

開催場所となっていた古民家が閉鎖された今、「おたがいさま食堂」は場所を移して再出発するのことに！誰もが集える、ゆるりと心地よい地域のつながりが再開されるのが楽しみです！

農家さんのビールやさんは
「まちの社交場」

ヤギサワバル

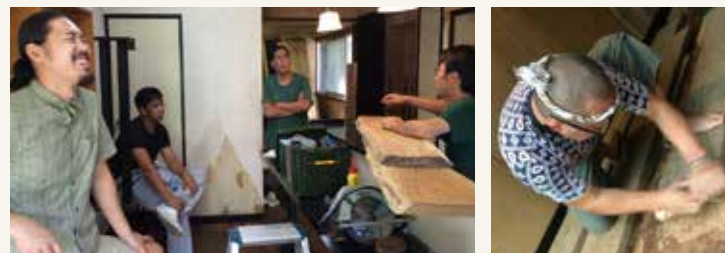
大谷剛志さん
OOTANI GOSHI

ヤギサワバル

住所：西東京市保谷町3-8-8 定休日：毎週月曜～水曜
営業時間：19時～22時（Facebookで要確認）



小さな醸造所で醸した手造りクラフトビールを楽しめるビアバル。次々と仕掛けられるイベントも、要チェック！



面倒なんだけど手作りしたほうが、ものごは楽しい。そういう価値観を共有できる場にしたい。賛同した仲間と共に、もらいものの古材や什器でなるべく「お金をかけずに」準備を開始！「上へ、上へ」と伸びやかでシンボリックな「もみの木」の内装など、製材所からの頂きモノが、活かされている。



今宵は駄菓子をおトナ食い「チビ太のおでん」に「落語」まであるよ〜♪ 「駄菓子ナイト」楽しくないわけがない！

エンジンランプのフィラメントがあたたかい光を放つ中、15人も入れっぱっぱいになってしまいう小さなスペース。クラフトビール片手にオトナたちが語らい、素直な野菜の味や嬉しい学びに出会う。

ここ「ヤギサワバル」は、何ものにもとらわれないオーナー・大谷剛志さんのライフスタイルに、常日頃考えられていることを乗っけてみたら「形」になった……と説明するのがピッタリの場所です。

大谷さんは主宰しているサッカー教

室のある街に住みながら、仕事先である農園（茨城県鹿嶋市）へ出勤しています。

「職場で自然栽培野菜とクラフトビールを作っているんだから、こちら（柳沢）で提供してみよう」と、借りているアパートの空きスペースが元ラーメン店だったことから、思い立ったその酒場がなくなっていったらいいな、と。

例えばお話を会を箱（会場）押さえてやろうとすると『集客が』『支払いが』などエネルギーが別のものに取ら

れる。客がたつたの二人だろうが、話そうと思っていた内容は変わらないはず。じゃあ、うちでやるよ。俺が聞くよ、その話。って」日々行われる催しは、そんな思いから。

「醸しナイト 自然栽培野菜と発酵料理の夕べ」「バルとお話の会」……農家さんがやっているクラフトビール屋さんのイベントは、続きます。うん、なにかに出会えそう！

何ものにもとらわれない心地よいエネルギーを求め、集え！ヤギバルの夜♪



第一回開催 2016年10月30日(日)ほうやちよう保育園園庭および保谷第三児童遊園 入場者数：約1200人

決してひろくない敷地内は、まるで宝箱をひっくり返したような?! 賑わい、すでに「すごいモノに化ける」予感タップリな、第一回目でした。

コト・ヒト 西東京
やぎさわマーケットって、なんだ!?

市内で注目!の「魅力あふれるコトやヒト」を紹介するこのコーナー。4回目となる今回は、あんなものやら、こんなことまで……!? 初回から大盛況〜♪ ある意味「カオス」なデビューを飾った「やぎさわマーケット」をご紹介します。こりゃ〜行かなきゃ、損!損!!

取材・撮影 徳丸由利子 廣田亜希子 三好希世乃

「いやあ〜、楽しいですね!」
曇って肌寒かった第一回も、花吹雪散る好天に恵まれた第二回でも、皆さんの第一声は同じ! やぎさわマーケットは、こんな感想をいただける場所でした。

「衛生的に問題なければ大音声以外、オッケー!」という、ゆる〜いルールから生まれた第一回には、手づくり作家さんの逸品から不要品バザー、加工食品のたたき売りにアンティーク雑貨、アフリカ直輸入の食材や布、農家直送野菜に自慢のお米、刺身!柳沢の名店の味あればキッチンカーあり、アート書道伝筆(つてぶで)のワークショップに射的まで! という不思議空間が誕生していました。さらに、CDデビュー歌手からベリリダンスまで登場したステージの司会は、市内在住のプロの落語家さん。大盛り上がりとなりました。

まさに「フリマという名のなんでも市」というキャッチコピーそのままです。

第二回は会場が広くなったこともあり、30軒余りだった参加団体も50に迫る勢い。ビールが飛ぶように売れ、フリマの賑わいはもちろんのこと、ワークショップもウクレレ、アロマ、バックチーポット作成などと広がり、ステージは桜の花吹雪の下、大喝采♪「ゆる〜い空気感で居心地がよかったです」。長居しても気持ちよいのって新鮮!」

「桜吹雪の中で新しい出会いもあった、楽しかったですし、この人出に正直びっくり!」と、来場者の方々の笑顔も弾けていました。

このイベントの主催団体は「柳沢駅前お買い物便利度向上委員会」という「おカタい」名前です。平成25年度から3年がかりで行なわれた「西東京市商業便利度向上調査」を取りまとめた中小企業診断士の板橋昭寿さんが、調査に協力したフツの市民(といいつつ、懐メロ喫茶イベント主催者・西東京市一店逸品選考委員・市民活動支援団体の方など、パワーのある皆さん!)と、駅近辺の店主と声をかけて、この団体を作ったそうです。

実は、市内の駅の中で、駅周辺店舗舗利用率が最も低いのが西武柳沢駅とか。吉祥寺や三鷹へは駅前からバスで20〜30分、田無まで歩いても同じくらい。だから地元柳沢駅には「降り立つだけ」と。この調査結果に、柳沢在住歴ウン十年の板橋さんは大変悲しく、悔しく思ったといいます。

「でも、この機会に柳沢を訪れた人はとても良い商店があるとかかり、普段も買い物しようと思うのでは」と、誕生したのが「やぎさわマーケット」でした。

1200人を超える来場者にスタッフも驚いたという第一回。ところが第二回にはその人数をはるかに超え、2100人以上の来場があったそう。

「開始から終了まで、息つく暇もないほどの盛況ぶりでした。柳沢で、こんなに沢山の人が来るイベントは、僕の記憶にありません。続けて行くことで、みんなが楽しみに待ちわびるイベントにしていきたい」と、笑顔で語ってくれたのは実行委員会メンバーの街の駄菓子屋さん。同じく自転車屋さんも「ガンガンやっていきましょよ」。いずれも最近柳沢にお店を出された方々で、なんだか街のパワーも上がってきたみたいですよ……!

次回は、10月15日(日)予定とのこと。やぎさわのカオスなパワーにご注目あれ。

第二回開催 2017年4月16日(日)柳沢せせらぎ公園 入場者数：約2100人



「そこに来るお客さんが、まるでピクニックをしているような気持ちで、マーケットを楽しんでくれば」と、代表の板橋さん。

第二回ポスター



柳沢駅前お買い物便利度向上委員会 代表 板橋昭寿さん

次回のやぎさわマーケットは、10月15日開催です。詳しくはホームページをチェック!